

(提案13)

公開シンポジウム「国外生物試料の研究と生物多様性条約に伴う ABS (Access to genetic resources and Benefit Sharing) 問題」の開催について

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同 植物科学分科会
2. 共 催：公益社団法人日本植物学会
3. 日 時：平成25年9月13日（金）14：30～17：00
4. 場 所：北海道大学札幌キャンパス高等教育推進機構
5. 分科会の開催：開催なし
6. 開催趣旨：

生物多様性条約（CBD）の目的の1つに ABS (Access to genetic resources and Benefit Sharing) 「遺伝資源の利用から生じた利益の公平で衡平な配分」がある。実施国際法として2010年に名古屋 ABS 議定書(NP)が採択された。現在加盟国は、15カ国であるが、日本でも国内法整備と議定書への加盟を準備しつつある。CBD 発効以来、生物多様性へのアクセスには、法的及び倫理的配慮が必要であったが、今後は我が国においても、NP の発効を意識し、学術研究としてルールへの遵守が必要となる。遺伝資源の意味を十分に理解するとともに、アクセスする際には、植物の研究者もまた、その法令に沿って契約を結び、利用することになる。本シンポジウムは、植物科学分科会が（公社）日本植物学会との共催により、環境省、文部科学省の窓口としてABS問題に詳しい専門家とフィールドワークによって生物多様性研究に取り組んでいる研究者からの講演と参加者による討論を通じて、ABS への理解を深めることを目的として行う。特に、植物科学の研究者や植物への関心の深い一般人を対象として、ABS とは何か、ABS の海外の動向、また ABS 国内法がどのような形になろうとしているのか等について、理解を深めたい。
7. 次 第：
 - (1) 挨拶（開催趣旨説明）

戸部 博* (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授)

- (2) 生物多様性に関わる国際取り決めと学術研究の関係

渡邊 和男 (筑波大学遺伝子実験センター)

- (3) 名古屋議定書に係る国内措置のあり方検討会の検討状況について

堀上 勝 (環境省自然環境局生物多様性施策推進室)

- (4) 学術研究分野における名古屋議定書の国内措置検討の課題

鈴木 睦昭 (国立遺伝学研究所)

- (5) ABSに係わる日本の国内措置の方向性と多様性植物学分野の調査・研究

村上 哲明 (首都大学東京 牧野標本館)

- (6) 自然史資料収集と ABS

西田 治文 (日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授)

- (7) 総合討論

演者およびシンポジウム参加者

- (8) 閉会の挨拶

福田 裕穂* (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案14)

公開シンポジウム「超高齢社会における Oral-Systemic Medicine」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 歯学委員会 基礎系歯学分科会

2. 共 催：歯科基礎医学会

3. 後 援：日本医歯薬アカデミー

4. 日 時：平成25年9月21日（土） 9:00-11:00

5. 場 所：岡山コンベンションセンターF会場（岡山市北区駅元町14番1号）

6. 分科会の開催：開催予定（基礎系歯学分科会）

7. 開催趣旨：

基礎系歯学分科会では、関連学会との連携を強化するために過去6年間、歯科基礎医学会において日本学術会議主催のシンポジウムを開催してきた。第22期日本学術会議歯学委員会では、「超高齢社会における歯学・歯科医療のあり方」を中心課題として活動している。そのため、第55回歯科基礎医学会学術大会で「超高齢社会における Oral-Systemic Medicine」に関するシンポジウムを開催して関連学会との連携を図り、基礎系歯学分科会活動を強化していきたいと考えている。

8. 次 第：

座長：

滝川 正春*（日本学術会議連携会員、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科口腔生化学分野教授、第55回歯科基礎医学会学術大会総会会頭）

岩田 幸一*（日本学術会議連携会員、日本大学歯学部口腔生理学講座教授）

開会挨拶：

滝川 正春*（日本学術会議連携会員、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科口腔生化学分野教授、第55回歯科基礎医学会学術大会・総会会頭）

シンポジストの発表

9:05-9:55 インクレチン療法の期待と課題

清野 裕（関西電力病院病院長）

9:55-10:25 歯周病と糖尿病の関連性からひもとくOral-Systemic Medicineの分子
基盤

西村 英紀（九州大学大学院歯学研究院歯周病学分野教授）

10:25-11:55 命を支えている臓器としての骨組織-歯周疾患と骨粗鬆症の関連-
宇田川信之（松本歯科大学口腔生化学講座教授）

閉会挨拶：

岩田 幸一*（日本学術会議連携会員、日本大学歯学部口腔生理学講座教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案15)

公開シンポジウム「ユビキタス状況認識と時空間データの新展開」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議 情報学委員会 ユビキタス状況認識社会基盤分科会
2. 共 催： 東京大学大学院情報学環、ユビキタス社会情報基盤研究センター（予定）
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成25年10月4日（金）13：30～16：30
5. 場 所： 東京大学内（予定）
6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

ユビキタスコンピューティングとは、遍在的にコンピュータ要素を環境中に組み込むことにより、いつでも、どこでも、誰でもが、コンピュータの情報処理能力を利用できるようにする技術体系のことを指す。それによって目指すのは、状況に応じた最適化サービスの提供であり、行政、流通、安全・安心、災害対応など、国民生活において大きな改革をもたらすことが期待されている。

このような技術的・社会的背景のもと、日本学術会議情報学委員会ユビキタス状況認識社会基盤分科会では、場所情報が社会インフラとして整備された「ユビキタス状況認識社会」の実現に向けた議論を進めている。今回は、物の属性情報と時空間情報を統合した状況情報、およびその土台となるオープンでユニバーサルな情報社会基盤を確立する重要性を再確認し、将来のユビキタス空間情報社会の実現へ向けた現状と課題について議論を行うことを目的として、分科会シンポジウムを開催する。

8. 次 第：(現時点での予定)

13:30-13:35 開会挨拶 坂村 健*（日本学術会議第三部会員・情報学委員会ユビキタス状況認識社会基盤分科会委員長、東京

大学大学院情報学環教授、ユビキタス情報社会基盤研究センターセンター長)

13:35-13:55 講演 1 坂村 健* (日本学術会議第三部会員・情報学委員会ユビキタス状況認識社会基盤分科会委員長、東京大学大学院情報学環教授、ユビキタス情報社会基盤研究センターセンター長)

13:55-14:15 講演 2 徳田 英幸* (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授)

14:15-14:35 講演 3 萩田 紀博* (日本学術会議連携会員、株式会社国際電気通信基礎技術研究所知能ロボティクス研究所所長)

14:35-14:55 講演 4 碓井 照子* (日本学術会議第一部会員、奈良大学名誉教授、NPO 法人全国 GIS 技術研究会理事長)

14:55-15:15 講演 5 森田 喬* (日本学術会議連携会員、法政大学デザイン工学部教授)

15:15-15:30 休憩

15:30-16:30 パネルディスカッション

コーディネータ: 坂村 健* (日本学術会議第三部会員・情報学委員会ユビキタス状況認識社会基盤分科会委員長、東京大学大学院情報学環教授、ユビキタス情報社会基盤研究センターセンター長)

パネリスト: 徳田 英幸* (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授)
萩田 紀博* (日本学術会議連携会員、株式会社国際電気通信基礎技術研究所知能ロボティクス研究所所長)
碓井 照子* (日本学術会議第一部会員、奈良大学名誉教授、NPO 法人全国 GIS 技術研究会理事長)
森田 喬* (日本学術会議連携会員、法政大学デザイン

工学部教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案16)

公開シンポジウム「第6回形態科学シンポジウム『医学・生物学研究の魅力を語る：高校生のための集い』」の開催について

1. 主催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 細胞生物学分科会、基礎医学委員会 形態・細胞生物医科学分科会
2. 共催：京都府教育委員会
3. 後援：日本解剖学会、日本顕微鏡学会、日本組織細胞化学会、日本医歯薬アカデミー（予定）
4. 日時：平成25年10月12日（土） 13：30～17：00
5. 場所：京都大学医学部・記念講堂
6. 分科会の開催：開催予定（12：00～13：00 京都大学医学部）
7. 開催趣旨：
スーパーサイエンスハイスクール(SSH)校を中心に、医学・生物学研究に関心を持つ高校生に呼びかけ、医学・生物学研究の最前線を分かりやすく解説する。また第一線の研究者と高校生が気軽に語り合う場を設け、将来の医学・生物学研究を担う人材の啓発に資するものとしたい。
8. 次第：
13：30 開会挨拶
中野 明彦*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科教授）
13：35 講演会
座長：藤本 豊士*（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院医学系研究科教授）
・講演1
松田 道行*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院医学研究科教授）
・講演2
瀬原 淳子（京都大学再生医科学研究所教授）
15：15 高校生と語る会
司会：萩原 正敏*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院医学研究科教授）

15：55－16：05 （休憩と会場移動）

16：05 交流会

16：55 閉会挨拶

廣川 信隆*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「裁判員裁判と量刑不当」の開催について

1. 主催 日本学術会議 心理学・教育学委員会 法と心理学分科会、社会のための心理学分科会
2. 共催 法と心理学会、文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究プロジェクト「法と人間科学」
3. 日時・場所
平成25年10月13日(日) 15時20分～17時50分 九州大学
4. 分科会 開催予定なし

5. 開催趣旨

2009年5月21日に裁判員裁判の運用が始まって4年以上が経過した。この間に第1審の事実認定や量刑判断を尊重する運用が進み、裁判員裁判は控訴審の在り方にも変化を及ぼしている。司法統計によれば、裁判員裁判においては判決後の情状を理由とする場合を除いて、量刑不当による破棄はほとんどみられなくなり、裁判員裁判の量刑を尊重する控訴審の姿勢が明らかになっている。しかし、こうした中でも、裁判員裁判の下した刑が量刑不当とされた事例は認められ、量刑不当審査の基準を絶えず検証することが大切である。また、実際の量刑をめぐる評議の過程に関する裁判員の意見からは、量刑データベースから導き出される値に強く依存していることが示唆され、市民感覚の反映という場合の「市民感覚」の実体についても、被害者への共感や被告人への反感といったヒューリスティックな判断により支配されているのではないかという懸念もある。量刑判断は、より科学性が重視されるべきものであり、必ずしも直接・口頭主義にはなじまないのではないかという刑事訴訟のあり方に係る問題もかかわってくる。

そこで、本シンポジウムでは、「裁判員裁判と量刑不当」をテーマに、裁判員裁判において量刑判断の誤りが生じる原因や対応につき法律学的及び心理学的見地からの議論を通じて、今後の裁判員制度下における控訴審の在り方について、のより適切で細やかな指針を模索したい。

6. 次第

15:20 趣旨説明

田淵 浩二(九州大学大学院法学研究院教授)

15:30 「裁判員裁判と量刑不当の審査」(仮題)

原田 國男(慶應義塾大学大学院法務研究科客員教授、元東京高裁部総括判事)

16 : 00 「裁判員裁判における情状弁護の実情」 (仮題)

林 優 (福岡県弁護士会)

16 : 30 「裁判員の市民感覚と量刑判断」 (仮題)

唐沢 穰* (日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院環境学研究科教授)

17 : 10 指定討論

松宮 孝明* (日本学術会議連携会員、立命館大学大学院法務研究科教授)

17 : 45 閉会の辞

箱田 裕司* (日本学術会議第一部会員・社会のための心理学分科会委員長、九州大学大学院人間環境学研究院院長・教授)

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

歴史教育シンポジウム「ナショナリズムと歴史教育－東アジアを中心として－」
の開催について

1. 主 催 日本学術会議 史学委員会、史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分
科会、日本歴史学協会
2. 日 時 平成25年10月19日(土) 13時30分～17時30分
3. 場 所 駒沢大学 駒沢キャンパス 1号館 1-304教場
4. 委員会等の開催 開催予定なし

5. 開催趣旨

例年、日本学術会議史学委員会と日本歴史学協会との共催で実施してきている「歴史教育シンポジウム」である。

今回は、近年、さまざまな社会現象の際に指摘されるナショナリズムについて、歴史的・科学的にどのように捉えるべきか、また、これまでどのように議論されてきたのか、という点に焦点を当てて、検討しようとするものである。

ナショナリズムは、歴史的にみれば、どの国・どの地域にも存在するが、ともすると感情的な色彩が濃くなったり、非科学的な認識に基づく発言や行動を伴いやすいという特徴があり、時には反省すべき出来事の原因となったことも否定できない。

しかも、今後も急速に拡大するであろうグローバル世界のなかでは、これまでのナショナリズムがすべて許容されるべきであるとは考えられない。一方、拡張するグローバル世界のなかで、ナショナリズムはどのような位置を占め、どのような役割を果たすのか、については、十分な検討がなされていない。

このような状況にある現在、日本の戦時期の愛国心、中国の五四運動に見られるナショナリズム、韓国の新しい教科「東アジア史」が果たす役割、などを歴史的・科学的に分析し、そこから導き出される結論・方向性に学びながら、今後のグローバル世界におけるナショナリズムのあり様などについて冷静に議論しておくことは重要なことと考える。

6. 次 第

開会挨拶 (13:30～13:35)

木村 茂光* (日本学術会議第一部会員、帝京大学文学部史学科教授)

趣旨説明 (13:35～13:50)

近藤 一成 (日本歴史学協会歴史教育特別委員会委員長、早稲田大学文学芸術院教授)

報 告 (13:50～16:00)

上田 美和 (早稲田大学文学部講師)

「逆説的な愛国心－戦時期自由主義者の場合－」

吉澤誠一郎 (東京大学大学院人文社会系研究科准教授)

「五四運動から見る中国ナショナリズム」

君島 和彦* (日本学術会議連携会員、東京学芸大学名誉教授)

「韓国の歴史教育と“東アジア”教科書」

総合討論 (16:10～17:20)

閉会挨拶 (17:20～17:30)

廣瀬 良広 (日本歴史学協会委員長、駒沢大学学長)

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者等は、主催委員会・分科会委員)

(提案19)

自然災害に関する第2回地球災害リスク研究会(G-EVER)国際シンポジウムおよび第1回国際地質科学連合(IUGS)・日本学術会議国際ワークショップ「アジア太平洋地域の災害とリスクマネジメント：沈み込み帯の地震・津波・火山噴火・地すべり」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 地球惑星科学委員会 IUGS分科会、G-EVER コンソーシアム、産業技術総合研究所地質調査総合センター、国際地質科学連合(IUGS)
2. 共 催：日本地質学会、東・東南アジア地球科学計画調整委員会(CCOP)
3. 後 援：東北大学、京都大学防災研究所、防災科学技術研究所、米国地質調査所(USGS)、ニュージーランド地質核科学研究所(GNS Science)、日本地震学会、日本火山学会、日本第四紀学会、日本活断層学会、応用地質学会、東京地学協会
4. 日 時：平成25年10月19日(土) 9:00～18:00
平成25年10月20日(日) 9:00～18:30
5. 場 所：宮城県仙台市情報・産業プラザ
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

アジア太平洋地域は地震・津波・火山噴火の大規模自然災害のリスクが高い。一旦災害が発生すれば、高度に発達した国際経済社会では、被災国のみならず、国際的な問題に発展し得る。大規模自然災害への対策は人間の安全保障として、経済の持続的発展のためにも重要である。今、国際的な枠組みを作って協力し、我が国も含めたアジア太平洋諸国のリスク軽減のために情報収集メカニズムを構築することが望まれる。

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震から2年半が経過し、世界各地で、地震・津波・火山噴火・地すべりを始めとする自然災害に対する防災、リスク対策が

進められている。G-EVER コンソーシアムでは、海外及び国内の研究機関と協力して、下記の活動を推進している。

1. アジア太平洋地域の地震及び火山防災関連の研究機関及び関連組織の協力体制の確立

2. 各種地震及び火山関連の防災情報の提供と共有化の推進

3. データベース構築・データ交換・災害リスクの低減のための国際標準化

第2回 G-EVER 国際シンポジウム、第1回 IUGS・日本学術会議国際ワークショップでは、アジア太平洋地域の地震、津波、火山、地すべり等の自然災害に関する研究の現状と課題について広く議論を行うとともに、(1)災害に強い社会に変えていくために必要な今後の研究テーマや優先順位、(2)今後社会に必要とされるハザードマップのあり方およびアジア太平洋スケールでの取り組み、(3)固体地球科学からの貢献の重要性等について、IUGS 会長、副会長および海外から一線の研究者を招き、今後10年間の将来展望を見すえた討論を行う。

8. 次 第：

1 日目 (10 月 19 日)

開会挨拶：

司会 : Naoji Koizumi

9:00-9:15 佃 栄吉*(日本学術会議連携会員、独立行政法人産業技術総合研究所理事)

9:15-9:20 Roland Oberhaensli (IUGS President)

9:20-9:25 松本 良*(日本学術会議連携会員、明治大学農学研究科特任教授)

**Session 1: Scientific challenges for risk reduction of natural disasters:
Overview**

司会 : 松本 良*(日本学術会議連携会員、明治大学農学研究科特任教授)
小川勇二郎*(日本学術会議特任連携会員、筑波大学名誉教授)
Shinji Takarada

9:25-9:50 Ian Lambert (IUGS Secretary General) and Roland Oberhaensli (IUGS)
Catastrophic earthquakes and tsunami: Towards more effective risk reduction

9:50-10:15 Akira Ishiwatari (Tohoku Univ.)
Response of the damaged scientists to the Tohoku earthquake-tsunami catastrophe

10:15-10:40 Kuniyoshi Takeuchi (ICHARM, PWRI)
Geo-sciences for post-2015 challenges of disaster risk reduction

10:40-11:00 [休憩]

11:00-10:25 John Eichelberger (Alaska Univ., G-EVER Consortium Vice-President)
Some successes and failures in mitigating disaster risk from volcanic eruptions

11:25-11:50 Chris Newhall (Earth Observatory of Singapore)
Scientific and social challenges of forecasting a VEI ≥ 7 eruption

11:50 -12:15 Shinji Takarada (Geological Survey of Japan, AIST)
Global earthquake and volcanic eruption risk management (G-EVER) and the next-generation volcanic hazard assessment system

12:15-14:00 [昼休憩]
**Poster Session Core Time
SCJ-IUGS Japanese Branch Meeting**

Session 2: Landslides and seismic hazards

司会 : James Goff and Yasuto Kuwahara

14:00-14:25 Peter Bobrowski (Simon Fraser Univ.)
From landslides to civil unrest: the implications of subduction zone earthquakes

14:25-14:50 Kiiciro Kawamura (Yamaguchi University)
Submarine landslides and marine geohazards

14:50-15:15 千木良雅弘* (日本学術会議連携会員、京都大学防災研究所教授)
& Toshitaka Kamai (Kyoto Univ.)
Landslides in tectonically active countries

15:15-15:40 Cheng-Horn Lin (Academia Sinica)
Landslide detection by broadband seismic network

15:40-16:05 Ruizhi Wen (China Earthquake Administration)
Strong motion observation in April 20, 2013 Lushan, China, Earthquake and its damage implication

16:05-16:20 [休憩]

16:20-16:45 Pilar Villamor (GNS Science)
GEM-Faulted Earth: Towards a global active fault database

16:45-17:10 Yuzo Ishikawa (Geological Survey of Japan, AIST)
Proposals to revise ISC-GEM earthquake catalog

17:10-17:35 Nguyen Hong Phuong (VAST)
Scenario-based tsunami hazard assessment for the coast of Vietnam from the Manila Trench source

17:35-18:00 Ken Xiansheng Hao and Hiroyuki Fujiwara (NIED)
Toward harmonization of seismic hazard assessment in the East Asia region

2 日目 (10 月 20 日)

Session 3: Volcanic activities, 2011 Tohoku-oki earthquake and subduction tectonics

司会 : John Eichelberger, Ronald Harris and Akira Takada

9:00-9:25 中田 節也*(日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授)

Complexity of the Shinmoe-dake eruption in 2011

9:25-9:50 Ma. Antonia V. Bornas (PHIVOLCS)

1911? 1754? BBS? 5.6ky? Hazards evaluation, monitoring and preparedness for the range of worst-case scenario eruptions of Taal Volcano, Philippines

9:50-10:15 Toru Matsuzawa (Tohoku Univ.)

What occurred in the Japan trench region before and after the Tohoku-oki earthquake?: Seismological aspects

10:15-10:40 Yuichiro Tanioka and Aditya Gusman (Hokkaido Univ.)

Tsunami generation mechanism due to the 2011 Tohoku-oki earthquake and a new method for the real-time tsunami inundation prediction

10:40-11:00 [休憩]

11:00-11:25 Mark Cloos (Univ. Texas, Austin)

Subduction zone tectonics: Subduction accretion versus erosion and the nature of the plate interface

11:25-11:50 Takuya Nishimura (Kyoto Univ.)

Crustal deformation of northeastern Japan clarified by geodetic observation over the past century

11:50-12:15 Yasutaka Ikeda (Univ. Tokyo)

Strain buildup and release in the Northeast Japan orogeny over geologic and geodetic time scales with implications for gigantic subduction earthquakes

12:15-13:30 [昼休憩]

Session 4: 2011 Tohoku-oki earthquake and tsunamis

司会 : Pilar Villamor, Masahiro Chigira and Yuzo Ishikawa

13:30-13:55 Daisuke Sugawara, Tomoyuki Takahashi and Fumihiko Imamura (Tohoku Univ.)

Sediment transport by the 2011 Tohoku-oki tsunami at Sendai Plain: implications from numerical simulation

13:55-14:20 Kazuhisa Goto (Tohoku Univ.)

Tsunami deposits of Jogan and Tohoku-oki earthquakes and their historical implication

- 14:20-14:45 James Goff (Univ. NSW)
Tsunamis and tsunami deposits: Looking beyond the sand
- 14:45-15:05 [休憩]
- 15:05-15:30 Masataka Ando (Academia Sinica)
Did earthquake science reduce causalities of the Mw 9.0 Tohoku-oki earthquake?
- 15:30-15:55 Phil Cummins (ANU)
Implications of the 2011 Tohoku Earthquake for other subduction zones elsewhere
- 15:55-16:20 Ronald Harris, John Major and Yung-Chun Liu (Brigham Young University)
Who's next? History of tsunami disasters in Indonesia
- 16:20-16:45 Yildirim Dilek (Miami University)
Geopolitics and earth's future: Natural disasters and related geoscientific research
- 16:45-17:00 [休憩]
- 17:00-18:25 Panel Discussion
(Chair: Chris Newhall, Yildirim Dilek, Yujiro Ogawa and Shinji Takarada)
- 18:25-18:30 閉会挨拶：
Hirokazu Kato (AIST Fellow, Former Director General, GSJ, AIST)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案20)

公開シンポジウム「自然共生社会をめざそう！共生の科学、社会、文化を考える」の開催について

1. 主催： 日本学術会議環境学委員会
2. 共催： 一般財団法人日本森林林業振興会（交渉中）
3. 日時： 平成25年10月21日（月）13：30～17：00
4. 場所： 日本学術会議講堂
5. 委員会の開催： なし

6. 開催趣旨：

2010年名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）において、「自然共生社会」を目指すことが主唱され、3.11以後の日本各地での市民活動の共通目標ともなっている。

日本学術会議環境学委員会は、「日本の展望－学術からの提言2010 環境学分野の展望－持続可能な社会に向けた国土・地球環境形成に対する環境学からの提案」において、地球公共財の持続的維持への総合的取組の基本方向を提示している。

一方、内閣府では、植物、森林、緑地、造園、自然保護等みどりに対する学術研究功績を表彰する「みどりの学術賞」が創設され、2007年を第1回とし本年まで7回の表彰がなされているが、より多くの国民に「みどり」についての関心と理解を促進するために、その学術的な業績と社会の関わりが紹介されることが望まれる。

そこで、21世紀の最重要テーマである「自然共生社会」の基本である“共生”の科学をわかりやすく解説し、共生（symbiosis）の仕組みや考え方を踏まえた社会、文化、さらには国際関係のあり方まで広く市民社会が共有すべき環境思想として理解が得られるようなシンポジウムを企画した。

7. 次第

開会挨拶 石川 幹子*（日本学術会議第三部会員、環境学委員会委員長、中央大学理工学部人間総合理工学科教授）

みどりの学術賞 —その意義と今後への期待—

木平 勇吉（第7回みどりの学術賞選考委員会委員）

第1部 「共生」、科学から社会へ

○ サクラソウとマルハナバチの共生科学（10分：質疑なし）

鷺谷いづみ*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授、第7回みどりの学術賞受賞者）

○ マツとマツタケの共生科学

鈴木 和夫（森林総合科学研究所理事長、第4回みどりの学術賞受賞者、元日本学術会議会員）

○ 沿岸林の再生と復興トマト／岩沼市復興の共生計画学

石川 幹子*（日本学術会議第三部会員・環境学委員会委員長、中央大学理工学部人間総合理工学科教授、第2回みどりの学術賞受賞者）

○ 日中韓／地域と環境と文化の共生

原 剛（早稲田大学大学院教授、環境ジャーナリスト、第7回みどりの学術賞選考委員会委員）

第2部（パネル討論）「自然共生社会」実現に向けて

コーディネーター

進士五十八*（日本学術会議連携会員、東京農業大学名誉教授、第7回みどりの学術賞選考委員会副委員長、元日本学術会議会員）

パネリスト

鷺谷いづみ*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授、第7回みどりの学術賞受賞者）

鈴木 和夫（森林総合科学研究所理事長、第4回みどりの学術賞受賞者、元日本学術会議会員）

石川 幹子*（日本学術会議第三部会員・環境学委員会委員長、中央大学理工学部人間総合理工学科教授、第2回みどりの学術賞受賞者）

原 剛（早稲田大学大学院教授、環境ジャーナリスト、第7回みどりの学術賞選考委員会委員）

（杉浦 昌弘）

閉 会

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の講演者は、主催委員会委員）

(提案21)

公開シンポジウム「学協会の新公益法人法への対応の現状と展望」について

1 主催： 日本学術会議科学者委員会 学協会の機能強化方策検討等分科会

2 日時： 平成25年10月22日（火） 13:00～16:40

3 場所： 日本学術会議 講堂

4 分科会の開催：開催予定

5 開催趣旨：

新公益法人法に基づく新法人への移行受付期間が平成25年11月30日に終了することを踏まえ、本分科会が学協会に実施したアンケート調査結果に基づいて、学協会の新公益法人法への対応の現状を明らかにする。また、公益法人を選択することのメリットとデメリット、任意団体が法人格を持つことのメリットなど今後の対応方法についても議論する。

6 プログラム：

司会

前半 福田 裕穂*（日本学術会議第二部会員）

後半 花木 啓祐*（日本学術会議第三部会員）

13:00～13:10 開会挨拶

小林 良彰（日本学術会議第一部会員・副会長）

13:10～13:40 「学協会の法人化の現状」

太田 達男（公益法人協会理事長）

13:40～14:00 「学協会の機能強化方策検討等分科会が行ったアンケート調査の報告」

石原 宏*（日本学術会議第三部会員）

14:00～14:20 「公益社団法人を選択した中規模学会の現状」

細田 衛士（公益社団法人環境科学会会長）

14:20～14:40 「一般社団法人を選択した小規模学会の現状」

太田 成男（一般社団法人日本ミトコンドリア学会理事長）

14:40～14:55 休憩

14:55～15:15 「公益法人・一般法人制度と小規模学会」

小幡 純子（日本学術会議第一部会員）

- 15 : 15～15 : 30 「学会連合体による対応」
佐藤 学* (日本学術会議第一部会員・第一部部長)
- 15 : 30～15 : 45 「移行期間終了後に想定される諸問題」
池田 駿介* (日本学術会議連携会員)
- 15 : 45～16 : 05 「学協会法人化の今後の展望」
惠 小百合 (公益等認定委員会委員)
- 16 : 05～16 : 35 質疑応答
- 16 : 35～16 : 40 閉会挨拶
田中 耕司* (日本学術会議第一部会員)

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案22)

公開シンポジウム「超高齢化社会における運動器の重要性」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 臨床医学委員会 運動器分科会
2. 共 催：日本公衆衛生学会
3. 日 時：平成25年10月24日（木） 10：00～11：50
4. 場 所：三重県総合文化センター
(三重県津市一身田上津部田町1234番地)
5. 分科会の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

超高齢社会を迎えている我が国において、「運動器」の領域はまさに21世紀の大きな課題である。本シンポジウムは、「変革期我が国の公衆衛生学の現状と課題—隣接諸科学との対話」を主題とする第72回日本公衆衛生学会において、同学会との共催を予定している。「超高齢化社会における運動器の重要性」について、研究者及び現場の立場を代表する専門家を交えてのdiscussionとしたい。

7. 次 第：

司会 鈴木 隆雄（国立長寿医療研究センター 研究所所長）
西脇 祐司*（日本学術会議特任連携会員、東邦大学医学部衛生学教授）

シンポジスト

吉村 典子*（日本学術会議連携会員、東京大学医学部附属病院関節疾患総合研究講座特任准教授）

藤原佐枝子（広島原爆障害対策協議会健康管理増進センター所長）

宮地 元彦*（日本学術会議連携会員、独立行政法人国立健康・栄養研究所健康増進研究部長）

渡辺 博史 (JA 新潟厚生連新潟医療センターリハビリテーション科)

8. 関係部の承認の有無： 第二部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案23)

公開シンポジウム「第3回材料工学委員会公開シンポジウム—材料の創製と高機能化を極める—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 材料工学委員会 材料工学将来展開分科会
2. 共 催：材料連合協議会、全国大学材料関係教室協議会、材料工学連合講演会、日本金属学会、日本鉄鋼協会
3. 後 援：資源・素材学会、日本材料学会、日本セラミックス協会、日本バイオマテリアル学会、日本 MRS
4. 日 時：平成25年11月1日（金）13：30 ～ 17：30
5. 場 所：日本学術会議 講堂
6. 分科会の開催：開催予定
(材料工学委員会・材料工学将来展開分科会合同会議)
7. 開催趣旨：

材料の進化は新しい科学技術や産業発展の基盤となり、人類の繁栄と社会進歩に貢献し、長い歴史の中で材料と社会は常に相補的・相乗的な関係を持ちながら共に進化し今日に至る。

学術分野として材料工学は、主に物理、化学さらに生物科学も含む基礎科学を融合した材料独自の専門分野を持ちながら、様々な工学分野を横断する基盤となる分野と言える。さらに経済的、社会的視点を踏まえると材料工学が扱う範囲は極めて多岐にわたる。そこで本委員会は、材料工学とは、材料の創製と高機能化を追求し極めようとする工学であると定義し、今回のシンポジウムに「材料の創製と高機能化を極める」と題し進化し続ける材料工学の技術や研究、また現状について講演する。
8. 次 第：

司会：中嶋 英雄*（日本学術会議第三部会員、公益財団法人若狭湾エネルギー研究センター所長、大阪大学名誉教授）

13 : 30 - 14 : 15 「ナノマテリアルから広がる医療イノベーション-高分子ミセルによるがんの標的治療-

片岡 一則* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授)

14 : 15 - 15 : 00 「シリコンフォトニクス-電子と光の走る集積回路を目指して-

和田 一実 (東京大学大学院工学系研究科教授)

15 : 00 - 15 : 45 「永久磁石材料の高性能化を極める」

佐川 真人 (インターメタリックス株式会社最高技術顧問)

(15 : 45 - 16 : 00 休憩)

司会 : 吉田 豊信* (日本学術会議会員第三部会員、独立行政法人物質・材料研究機構フェロー、東京大学名誉教授)

16 : 00 - 16 : 45 「長周期積層構造型マグネシウム合金による構造材料イノベーション」

河村 能人 (熊本大学先進マグネシウム国際研究センター長・教授)

16 : 45 - 17 : 30 「新日鐵住金のものづくりについて-新日鐵住金のMOT-

友野 宏 (新日鐵住金株式会社代表取締役社長)

9. 関係部の承認の有無 : 第三部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案24)

公開シンポジウム「人口減少と日本社会－ライフコース・地域経済・社会保障の行方－」の開催について

1. 主 催 日本学術会議 経済学委員会 人口変動と経済分科会

2. 日 時 平成25年12月20日(金) 13:00～18:00

3. 場 所 日本学術会議講堂

4. 分科会の開催 開催予定

5. 開催趣旨

少子高齢化と人口減少がわが国の社会・経済に及ぼす影響とその政策的インプリケーションについて、①将来人口推計からみたライフコースの変化、②人口高齢化と地域経済、③人口変動と社会保障、という3つの視点から報告・検討する。

6. 次 第

開会挨拶 樋口 美雄* (日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学商学部教授)

司 会 津谷 典子* (日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学経済学部教授)

登壇者 金子 隆一* (日本学術会議連携会員、国立社会保障・人口問題研究所副所長)

深尾 京司* (日本学術会議連携会員、一橋大学経済研究所教授)

岩本 康志* (日本学術会議第一部会員、東京大学大学院経済学研究科教授)

討論者 翁 百合* (日本学術会議第一部会員、日本総合研究所理事)

金子 隆一* (日本学術会議日本学術会議連携会員、国立社会保障・人口問題研究所副所長)

深尾 京司* (日本学術会議連携会員、一橋大学経済研究所教授)

岩本 康志* (日本学術会議第一部会員、東京大学大学院経済学研究科教授)

閉会挨拶 岩井 克人* (日本学術会議連携会員、国際基督教大学客員教授)

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案25)

公開シンポジウム「薬を生み出すシグナル生物学」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 薬学委員会 生物系薬学分科会
2. 共 催：日本薬学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成26年 1月10日（金）13：00～17：10
5. 場 所：日本学術会議 講堂
6. 分科会の開催：当日シンポジウム開催前に分科会の開催を予定

7. 開催趣旨：

細胞の内外で起こるシグナル伝達は、細胞の増殖、分化、運動に加えて細胞の生存と死を厳密に制御し、生命の成り立ちにおいて必死な役割を担っている。一方で、その厳密性故にシグナル伝達制御の破綻は多くの重篤な疾患発症の原因となっている。従って、関連する疾患に対する診断・治療方法の開発、特に治療薬開発という観点からシグナル伝達の詳細な解明は急務と言える。本シンポジウムでは、がん及び神経、骨代謝、免疫疾患に関わるシグナル伝達研究で機構解明に留まらず創薬の観点からも多くの成果を上げておられる5名の先生方とともに、創薬の新たな戦略としてタンパク質と化合物の相互作用の物理的解析及びバイオインフォマティクスを駆使した創薬について各1名の先生にご講演をいただく予定である。講演内容はいずれも基礎研究に留まらず臨床へと繋がるいわゆる橋渡し研究に関連する。シニアばかりでなく若手研究者にも有益な話題であり多くの聴講者が期待される。

8. 次 第：

13:00～13:10 開会挨拶

清木 元治*（日本学術会議第二部会員、高知大学医学部附属病院次
世代医療創造センター特任教授）

西島 正弘*（日本学術会議連携会員、昭和薬科大学学長）

座長 : 井上純一郎*（日本学術会議連携会員、東京大学医科学研究所教授）

13:10～13:40 吉村 昭彦（慶應義塾大学医学研究科教授）

免疫疾患と創薬

13:40～14:10 西道 隆臣 (理化学研究所脳科学総合研究センターチームリーダー)
アルツハイマーと創薬

14:10～14:40 田中 栄 (東京大学大学院医学系研究科教授)
骨疾患と創薬

14:40～15:10 津本 浩平 (東京大学大学院工学系研究科教授)
タンパク質と化合物の相互作用

座長 : 一條 秀憲* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院薬学系研究科教授)

15:30～16:00 目加田英輔 (大阪大学微生物病研究所教授)
卵巣がん和創薬

16:00～16:30 間野 博行 (東京大学大学院医学系研究科教授)
肺がん和創薬

16:30～17:00 宮野 悟 (東京大学医科学研究所教授)
バイオインフォマティクス和創薬

17:00～17:10

まとめ : 入村 達郎* (日本学術会議連携会員、聖路加国際メディカルセンター特別顧問、医療イノベーションセンター部部長)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案26)

平成25年度日本学術会議九州・沖縄地区会議主催学術講演会の開催について

1. 主 催 : 日本学術会議 九州・沖縄地区会議
2. 共 催 : 鹿児島大学、大学地域コンソーシアム鹿児島 (予定)
3. 後 援 : 鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、
(公財) 日本学術協力財団 (予定)
4. 日 時 : 平成25年11月18日(月) 14:30~17:00 (予定)
5. 場 所 : 鹿児島大学 稲盛会館 キミ&ケサメモリアルホール
6. テ ー マ : 「かごしまの水を考える - 鹿児島大学水研究最前線 -」 (予定)
7. 次 第 :
(司会進行) 箱田 裕司 (日本学術会議九州・沖縄地区会議代表幹事) (予定)
 1. 開会挨拶 (14:30~14:40)
 - 1) 家 泰弘 (日本学術会議副会長、東京大学物性研究所教授)
(14:30~14:35) (5分間)
 - 2) 前田 芳實 (鹿児島大学長) (14:35~14:40) (5分間)
 2. 講 演 (14:40~17:00)
 - 1) 「いのち育む水資源と水循環~池田湖の水利用と島嶼の地下水資源
について~」 (予定) (14:40~15:20) (40分間)
 籾井 和朗 (鹿児島大学農学部教授)
 - 2) 「水と災害~火山地域の水の流れと土砂災害について~」 (予定)
(15:20~16:00) (40分間)
 地頭菌 隆 (鹿児島大学農学部、地域防災教育研究センター教授)

— 休憩 — (16:00~16:15) (15分間)

 - 3) 「水と生活~南九州における赤潮およびアオコ等による水環境汚染

について～」(予定) (16:15～16:55) (40 分間)

前田 広人 (鹿児島大学水産学部教授)

3. 閉会挨拶 (16 : 55～)

箱田 裕司 (日本学術会議九州・沖縄地区会議代表幹事) (予定)

(提案27)

平成25年度日本学術会議九州・沖縄地区会議主催学術講演会の開催について

1. 主催 日本学術会議九州・沖縄地区会議、長崎大学、長崎大学原爆後障害医療研究所
2. 後援 福島県、長崎県、長崎市、長崎県医師会、長崎市医師会、(公財)日本学術協力財団
3. 日時 平成25年11月29日(金) 14:00～17:00
4. 場所 長崎大学医学部良順会館ボードインホール
5. テーマ 地球市民としてのあなたへ
～フクシマの復興に向けた長崎大学の挑戦～
6. 次第
 1. 開会挨拶(14:00～14:10)
小林 良彰(日本学術会議副会長、慶應義塾大学法学部教授)(14:00～14:05)
片峰 茂(長崎大学長)(14:05～14:10)
 2. 講演
 - ①「放射線健康リスク科学のこれから：長崎、チェルノブイリから福島へ」
(14:10～14:50)
高村 昇(長崎大学原爆後障害医療研究所社会医学部門教授)
 - ②「原発事故後の現況と健康への取り組み」(14:50～15:30)
大津留 晶(福島県立医科大学放射線健康管理学講座教授)
 - ③「緊急被ばく医療の国際的取り組みと国際原子力機関の緊急時対応援助ネットワーク」(15:30～16:10)
Elena Buglova (IAEA, Incident and Emergency Centre センター長)
 - ④「福島の歴史的予見の視点から：日本と自然災害」(16:10～16:50)

Greg Clancy (シンガポール大学教授)

3. 閉会挨拶 (16:50~17:00)

箱田 裕司 (日本学術会議九州・沖縄地区会議代表幹事)

(提案28)

平成25年度日本学術会議中国・四国地区会議主催公開学術講演会の開催について

1. 主催 日本学術会議 中国・四国地区会議, 香川大学, 香川高等専門学校
2. 共催 (公財) 日本学術協力財団
3. 後援 国土交通省四国地方整備局、香川県、高松市(予定)、東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会
4. 日時 平成25年12月7日(土) 13:30~17:00
5. 場所 かがわ国際会議場(サンポート高松 タワー棟6階)(予定)
6. テーマ 「大災害への備え—いのちと暮らしを守るために—」
7. 目的 近未来には南海トラフの四連動による巨大地震の襲来や、異常気象による風水害の増大が想定されています。中国・四国地区でも大災害への備えが必須となっていることから、人々の命と暮らしを守るための取組を、市民の方々とともに改めて考えていくことを目的としています。
8. 対象 高校生・大学生から高齢者の方たちまで、広く一般市民を対象としています。防災関係の専門家にも参加いただけることを期待しています。
9. 次第
 - 13:30~13:40 講演会開会あいさつ
嘉門 雅史(日本学術会議中国・四国地区会議代表幹事、香川高等専門学校校長)
 - 13:40~13:45 日本学術会議会長挨拶
大西 隆(日本学術会議会長、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘教授)
 - 13:45~14:30 強靱な国土創成と国土管理

大西 隆(日本学術会議会長、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘教授)

14 : 30～15 : 15 巨大災害から生命と国土を守る
和田 章(日本学術会議第三部会員、東京工業大学名誉教授)

15 : 15～15 : 30 休憩

15 : 30～16 : 15 災害復興と地方再生
米田 雅子(日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部教授)

16 : 15～17 : 00 地域の災害への備え (DCM)
白木 渡(香川大学防災教育センター副センター長)

17 : 00～ 閉会挨拶 (未定)

(提案32)

第11回産学官連携功労者表彰授賞式 開催概要 (案)

1 概要：

我が国の産学官連携活動の更なる進展に寄与するため、大学、企業等における産学官連携活動において大きな成果を収め、また、先導的な取組を行う等当該活動の推進に多大な貢献をした産学官連携の優れた成功事例に関し、その功績を称え、その内容、成功要因の発表の機会を設ける。

2 日時：

平成25年8月29日(木) 10時～11時30分

3 場所：

東京ビッグサイト西1ホール内

4 主催(予定)：

内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、日本経済団体連合会、日本学術会議

5 賞の種類：

内閣総理大臣賞、科学技術政策担当大臣賞、総務大臣賞、文部科学大臣賞、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、日本経済団体連合会会長賞、日本学術会議会長賞

6 プログラム：

時間	内容
10:00-10:01	(1) 開会
10:01-10:06	(2) あいさつ(総合科学技術会議議員 原山優子)
10:06-11:00	(3) 授賞(54分) 上記11賞
11:00-11:20	(4) 内閣総理大臣賞受賞者によるプレゼンテーション(20分間) 「100ギガビット級超高速光伝送システム技術の研究推進及び成果展開」(講演者依頼中)
11:20-11:21	(5) 閉会
11:21-11:30	(6) 全体記念写真撮影